

序

『すべての臨床医が知っておきたい腸内細菌叢』が完成した。私は、腸内細菌の研究をこれまで専門にしてきていない消化器内科専門医である。潰瘍性大腸炎、クローン病といった疾患を中心に診療をしていたため、腸内細菌が病態に影響することは知っていたが、研究者も少なく限られた領域という認識であった。ところが21世紀に入り、腸内細菌を遺伝子解析で同定する技術が急速に進歩し、腸内細菌がさまざまな疾患だけでなく、健康増進、寿命に影響すること、病態の修飾だけでなく、疾患そのものの発症の原因になっていることも明らかにされた。

本書の出版の目的は、腸内細菌叢というビッグデータを前にして、ここ5年間、私が大きな流れに溺れそうになりながら、懸命にもがいてきた記録を残すことであった。最初から読み進んでいただいても、決しておもしろい読み物ではないかもしれない。臨床医が腸内細菌叢のことを簡単に調べることが可能な辞書のような本をめざしている。さらに、できるだけ図で説明することにも挑戦し、最新論文情報も取り入れるよう心がけた。最終章には、医薬品だけでなく、食品も含めて紹介させていただいた。

最近、日本人は幸福でない、という記事を読んだ。世界幸福度ランキング2019が発表され、日本は58位であった。「幸福」はHappinessではなく、Well-beingと訳され、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることを指して用いられている。病気ではないとか、弱っていないということではなく、持続可能な多面的な幸福が大きな目標となっている。私は、このWell-being達成にもっとも重要な要因が腸内細菌叢ではないかと確信している。書名を『すべての臨床医が知っておきたい』としたのは、病気にかかわらずWell-beingをめざす臨床医に情報提供を

したい意味を込めている。日本にこの領域の臨床医のサポーターを増やすための書である。それぞれの疾患の予防、治療への最終ゴールには依然として到達できていないことは、一読いただければすぐに理解できる。患者さんを毎日診察されている臨床医の出番を期待している。腸内細菌叢情報の利用が、すべての人の健康と福祉につながることを願っている。

本書は、研究、臨床、教育と多忙な生活をしていた私には不可能な挑戦に思えたが、偶然に到来したwithコロナ時代に少しの時間ができたことは一つの幸いであった。また、私の強い希望を入れていただき、美しい本書を仕上げていただいた羊土社のスタッフの皆様に深謝申し上げます。一度も直接お会いすることもなく、メールとWEB会議で本が出来上がったことは、よい経験になりました。

2021年2月吉日

京都府立医科大学大学院医学研究科

内藤裕二